

「感染症等の健康危機管理に対応できる保健人材」のための e-learning 教材活用マニュアル

2025 年 3 月



一般社団法人日本看護系大学協議会

「感染症等の健康危機管理に対応できる保健人材」のための e-learning 教材活用マニュアル

目次

はじめにー教材作成の背景と活用マニュアルの目的	1
1.看護系大学終了時点で求められる「感染症等の健康危機管理に対応できる保健人材」の コンピテンシー	2
2.教材の基本的考え方と対象	2
1)本教材が想定する対象者	2
2)教材作成の基本とした考え方:インストラクショナルデザイン	3
3)教材の正確性の確保	3
4)学生及び現場看護職からの反応	3
5)活用に関する方針	4
3.教材の構成	4
1)状況設定	4
2)2つの領域	5
3)単元の構成	5
4)「大規模災害における看護活動」の構成	6
5)「感染症パンデミックにおける看護活動」の構成	7
6)事前事後テストの活用方法	7
7)受講証明書	7
4.活用方法	8
1)学部教育における活用方法	8
2)高大連携、オープンキャンパスなどでの活用方法	9
3)現任教育などでの活用方法	9
4)内容を素早く把握するためのヒント	9
5. JV-Campus への登録方法	11
1)推奨環境について	11
2)登録方法	11
3)JANPU 作成教材へのアクセス方法	12
4)学生グループの作成について	13
6. 謝辞	14
7. 委員会委員等	14
8. 資料一覧	15
資料1 感染症等の健康危機管理に対応できる保健人材のコンピテンシー	16
資料2 本教材を大学の教育に試用した大学の学生の意見	17
資料3 各項目の学習目標と、作成担当者からの一言メッセージ	20
資料4 各項目と看護師国家試験出題基準との対照表	25
資料5 本教材を試聴した現場看護職の意見	42

はじめにー教材作成の背景と活用マニュアルの目的

この e-learning 教材は、文部科学省の「感染症等の健康危機管理に対応できる保健人材養成のための調査研究事業」を一般社団法人日本看護系大学協議会（以下、JANPU）が委託事業として受託し、作成したものです。

JANPU では、新型コロナウイルス感染症(以下、COVID-19) の拡大に伴う看護学教育への影響と課題の把握、その対応策を重点課題にあげ、COVID-19 などの新興感染症による健康危機に対応できる看護人材の育成に取り組んできました。また、JANPU による臨地実習に関する調査では、83.4%の教育課程において現場での実践に制約がある実態が明らかになりました。一方、現場（保健所・保健センター、病院、訪問看護ステーション等）では、健康危機に対応する保健師・看護師の声として、保健所における感染症対策業務はもとより、保健所と病院、訪問看護ステーションや福祉施設等の公衆衛生と医療提供体制の間に緊密なネットワークが必須であることや、新興感染症に伴う健康危機に適切に対応し、次の危機に備えるための実践力、マネジメント力、分析力の重要性が指摘されていました。

JANPU では、これらの課題を多面的に調査・分析し、調査に基づく質の高い教育プログラムのもとで、新興感染症等による健康危機に対応できる保健人材養成促進をめざし、新興感染症や感染症を含む複合災害に対応可能な未来型保健人材として、「感染症等の健康危機管理に対応できる保健人材養成のための調査研究事業」を企画・提案し、受託することができました。

本事業では、1年目に幅広い調査を行った結果を基にしたコンピテンシーを作成し、2年目に教材づくりの方針を固め、プラットフォームを決めました。また、e-learning 教材は2年目・3年目に作成しました。作成した教材を有志の教員に活用していただくとともに、保健・看護現場の方々にも視聴していただき、ご意見をいただきました。

「感染症等の健康危機管理に対応できる保健人材のコンピテンシー」及び作成した e-learning が多くの看護大学の教員、学生、現場の看護師・保健師等に活用してもらえること願っております。

JANPU・文部科学省委託事業実行委員会
委員長 荒木田美香子

1. 看護系大学卒業時点で求められる「感染症等の健康危機管理に対応できる保健人材」のコンピテンシー

本教材の基本となるコンピテンシーは 2022 年度に、大学教員 30 名、学科長等 28 名、学生 29 名、自治体保健師 29 名、病院看護師 25 名、訪問看護ステーション 31 名へのヒアリング調査をもとに原案を作成し、その後 2 回法による、大学教員などへのデルファイ調査をおこない、最終的に 23 項目としました。資料 1 に拡大版があります。

学部生を対象としていること、本教材はあくまでも e-learning 教材であるということから、「実践できる」というものよりも「説明できる」という項目が多くなっています。

- 1.健康危機発生時における看護職の社会的責務を説明できる。
- 2.健康危機発生時における人々の尊厳と人権の擁護に向けた行動をとることができる。
- 3.健康危機発生時に生じる倫理的課題について説明できる。
- 4.個人・組織の情報の保護に配慮し、適切な情報管理ができる。
- 5.健康危機の発生に伴う個人・集団の健康上のリスクについて根拠に基づき説明できる。
- 6.健康危機発生時において、個人・家族の意思決定を支援する必要性を説明できる。
- 7.健康危機に関する信頼性の有る情報を収集できる。
- 8.健康危機の発生により影響を受けやすい個人・家族を理解し、基本的な対応策について説明できる。
- 9.健康危機のフェーズを踏まえて個人・家族の健康状態や生活への影響をアセスメントし、基本的な看護援助が実施できる。
- 10.健康危機下における遺族の心理的ケアの必要性について説明できる。
- 11.健康危機管理の基本（予防、発生時対応、拡大防止、再発防止）について説明できる。
- 12.健康危機発生時の二次的健康課題とその予防方法について説明できる。
- 13.健康危機が発生した集団/組織・地域をアセスメントし、根拠に基づく対応策を説明できる。
- 14.健康危機発生時に連携・協働する他職種・他機関について説明できる。
- 15.健康危機に応じたチーム体制とチームにおける看護職の役割を説明できる。
- 16.医療機関や各種施設の健康危機管理体制を支援する保健所や都道府県の役割を説明できる。
- 17.平時から健康危機管理体制を整える必要性和その方法を説明できる。
- 18.生活環境（家庭・学校・職場・施設）の健康のリスクを評価し、予防対策を説明できる。
- 19.健康危機管理の目的を踏まえて、トリアージ及び保健福祉の視点でのトリアージを説明できる。
- 20.健康危機発生時における、医療の確保のために関係者・関係機関と調整する必要性を説明できる。
- 21.健康危機下において、専門職として自らの健康管理・安全管理を行うことができる。
- 22.健康危機発生時における個人・家族の健康状態や生活状況に応じた関係者・関係機関等の役割及び連携について説明できる。
- 23.健康危機に対応するチームが機能を発揮するためのリーダーシップとメンバーシップのあり方について説明できる。

図 1 コンピテンシー一覧

2. 教材の基本的考え方と対象

1) 本教材が想定する対象者

主な対象者は看護系大学の学部 3 年生以上をイメージして作成しています。しかし、感染症対策の基本は基礎看護学でも活用でき、災害対策の基本なども 2 年生、学習のまとめとして 4 年生でも活用していただけます。教材一覧表をご確認いただき、各大学のカリキュラムに合わせて、見えそうなところを部分的に使っていただくことも可能です。

また、病院や介護/障害者施設、保健所・市町村等、現場の新任教育や平時の教育にも活用していただけます。

2) 教材作成の基本とした考え方：インストラクショナルデザイン

本教材は、教えることの科学と技術であるインストラクショナルデザイン（Instructional Design：ID）の考え方をもとに作成しました。

「教師中心から学習者中心へ」の考え方を教材に取り込むために、事例を用いること、クイズなどを加えて考える場面を設けることや、発問やクイズなどにおいては適切かつ即時にフィードバックを与えること、また、クイズでは結果だけでなく、解説を加えるようにすること等の工夫をしました。そして「知識の定着を図る」ために、各単元に事前テスト・事後テストを設け、自身の理解度を評価できるようにしました。教材は「考えてみよう」というフレーズを多用して、学生が一人でも、考えながら進めることができる教材とするよう心がけました。

また、教材を作成するにあたり、IDのメリルの第一原理のうち、特に、1～4を考慮して教材を作成しました。

メリルの第一原理

1. 現実に関わりそうな問題に挑戦する（Problem）
2. すでに知っている知識を動員する（Activation）
3. 例示がある（Tell me でなく Show me）
4. 応用するチャンスがある（Let me）

引用：鈴木克明（2015）『研修設計マニュアル』北大路書房

3) 教材の正確性の確保

教材は本委員会のメンバーが自身の専門性に関係のある単元や項目を担当し、教材を作成した後、委員以外の医師・専門看護師・研究者等の専門家にチェックを受け、さらにその後、他の委員会メンバー数名が加わり再度教材の内容を検討したうえで e-learning 教材化していくというプロセスを経て作成しました。

そのため、正確性と教材としての一定の品質を有していると考えていますが、音声合成を使用しているため、言葉のイントネーションに違和感がある部分など、不十分なところがあります。利用者のご意見をいただき、修正を重ねていきたいと思っております。

4) 学生及び現場看護職からの反応

(1) 学生の反応

本教材を教育に試用した大学の学生 135 名からの意見を紹介します（資料 2）。

回答は3年生が90%、4年生が9%でした。活用方法は「授業で先生が活用した」が51%と最も多く、次に「予習のために自己学習として利用した」24%、「実習先で活用した」が10%、「復習のための自己学習として使用した」が8%でした。

活用した結果、理解しやすさでは、「全体的に理解しやすかった」42%、「だいたい理解できた」52%の回答を得ました。また、役立ち感という点では「大変役立ちそうである」46%、「まあ役立ちそうである」47%の回答を得ました。いずれも、90%以上の学生が本教材を肯定的にとらえており、本教材は学部学生の現状に合ったものであると考えられます。

（2）現場看護職の反応

2022年度のコンピテンシー作成時にヒアリング調査に協力いただいた保健師、病院の看護師、訪問看護ステーションの看護師に視聴を依頼し、Web調査で意見を聴取しました。回答者は15名でした。その結果は、87%が現場でも活用できるという意見でした。自由記述では、「現場対応が忠実に反映されている」「随所に問題があって理解しやすい」といった本教材の強みの評価や、平時の新人研修や集合研修に活用できるという意見があり、現場での活用可能性も大いにありそうです。

5) 活用に関する方針

- （1）費用：無料
- （2）e-learning教材：学生個人所有のデバイスで学習できる教材
- （3）使用許可：不要
- （4）部分的活用：活用していただけます。1単元のみ、1項目のみ、1スライドのみ、1つのクイズのみという使い方をしていただいても、問題はありません。各大学の教育に応じて、使いたいところを使ってください。

3. 教材の構成

1) 状況設定

大規模災害や感染症パンデミックなどを体験している学生は多いわけではありません。学習内容を学生がイメージしやすいように、教材を通じて「A県山中市」での出来事とし、また、佐藤さん一家を対象として看護が行われるという設定になっています。



図 2 A 県山中市



図 3 佐藤さん一家

2) 2つの領域

本教材は、「大規模災害における看護活動」と「感染症パンデミックにおける看護活動」の2つの領域で構成しています。



図 2 2つの領域

3) 単元の構成

本教材は、教材の内容のひとまとまりである単元と、単元を構成する項目から構成されています。各項目は 20～30 枚程度のスライドで構成しており、20～30 分程度で学習できます。一つの単元の構成は、各項目の e-learning 教材の PDF、事前テスト、各項目の e-learning 教材、事後テスト、受講証明書で構成されています。

▼ 単元2 発災直後～72時間以内の避難所における看護・保健活動 ～佐藤さん一家との出会い～ ▶ 単元2のPDFファイルはこちら ▶ 単元2 事前テスト ▶ 単元2 項目1 災害時の医療体制 ▶ 単元2 項目2 災害時のトリアージ ▶ 単元2 項目3 医療ニーズが高い人々への支援 ▶ 単元2 事後テスト ▶ 単元2 受講証明書
--

図 3 1つの単元の構成例

4)「大規模災害における看護活動」の構成

単元	項目
単元1 発災直後～72時間以内の 看護・保健活動	項目1：災害対策の根拠となる法律 項目2：災害の各フェーズにおける保健活動の概要 項目3：災害対応における基本
単元2 発災直後～72時間以内の避難 所における看護・保健活動	項目1：災害時の医療体制 項目2：災害時のトリアージ 項目3：医療ニーズが高い人々への支援
単元3 発災直後～72時間以内の避難 所における看護・保健活動	項目1：避難所での生活環境の衛生対策 項目2：避難所における災害時要配慮者への対応およびアセスメントの視点 項目3：危機的出来事に見舞われた人々への支援 項目4：避難所における倫理的課題への対応 項目5：リスクコミュニケーション
単元4 72時間以降の避難所における 看護・保健活動	項目1：二次的健康課題のアセスメントと対応（個人） 項目2：避難所の生活環境による二次健康課題のリスクアセスメント（集団） 項目3：避難所における二次健康課題の予防活動（集団） 項目4：健康危機発生時の看護職自らの安全管理・健康管理 項目5：健康危機対応における連携・協働－リーダーシップとメンバーシップ－

4つの単元/16項目で構成しています。単元は、自然災害発生後の時間的経過によって構成されています。

なお、各項目の学習目標と、作成担当者からの一言メッセージ（紹介文）は資料3に掲載しています。

5) 「感染症パンデミックにおける看護活動」の構成

単元	項目
単元1 外来における個人・家族への支援	項目1：新型インフルエンザ疑い患者の保健所への相談と感染症外来受診時の誘導 項目2：外来看護師による緊急度のアセスメント 項目3：医師の診察・検査の支援と入院の調整 項目4：入院に関する本人・家族への説明
単元2 入院における個人・家族への支援	項目1：外来からの情報を元に、感染症病床の準備を行う 項目2：患者をストレッチャーで外来から、病床まで連れてくる 項目3：病室での対応と患者への説明 項目4：安楽な呼吸と排痰法の援助を行い、PPEを脱いで病室をでる 項目5：高齢者の個室入院に必要な看護問題を考える
単元3 施設における個人・家族への支援	項目1：保健所等の連絡を受けて入所者の健康状態を観察し、情報を整理する 項目2：感染症の疑いがある入所者からの感染を防ぐ 項目3：職員の健康状態を判断して感染拡大予防とケアの継続をはかる 項目4：対策本部の構築と検討すべき対応 項目5：急変し、死亡した入所者の家族への対応
単元4 保健所における個人・家族への支援	項目1：感染症発生届を受けた後の保健所の対応と保健師の役割 項目2：積極的疫学的調査の実際 項目3：濃厚接触者の特定と感染拡大のリスクの判定 項目4：関係機関・施設とのリスクコミュニケーション 項目5：濃厚接触者の健康観察
単元5 在宅における個人・家族への支援	項目1：濃厚接触者がいる家庭への訪問準備 項目2：訪問看護を実施する際の感染防止対策と近所への配慮 項目3：患者家族の健康状態の把握と感染防止のための家族への指導

5つの単元/22項目で構成しています。感染症が発生する場における看護を考えるように構成しています。

6) 事前事後テストの活用方法

事前テストは、主に各項目の中に含まれるクイズで構成しています。事前テストでは回答は表示されますが、解説は表示されません。単元を学習する前にチャレンジして、自分がどれぐらい内容を理解しているかの力試しとして活用できます。

事後テストも各項目の中に含まれるクイズで構成していますが、解答後に解説が加わります。また、間違えた問題も示されるため、復習にも役立ちます。事後テストは全問題の正答率 80%～90%が合格ラインになっています。

7) 受講証明書

事前テストおよび単元の各項目の学習を終了し、事後テストに合格すると、受講証明書を発行することができます。

事後テスト

残念。不合格です。

下の「テストを確認する」から、どこを間違えたか確認して、当該の項目を復習し、再度、事後テストを受けてください。

あなたの正答率 55.56%

合格基準: 90%

テストを確認する

図 4 事後テストの結果表示例

4. 活用方法

本教材は、e-learning 教材として、JV-Campus (<https://www.jv-campus.org/>) 上で使用していただくことができます。JV-Campus は文部科学省と筑波大学が運営している教育プラットフォームであり、安心して使用できます。

1) 学部教育における活用方法

講義、演習、実習前後の課題、国家試験対策などでの活用が考えられます。

(1) 講義

講義などの一斉授業の場面で、本教材の動画を流しながら、教員が解説を加えるということができます。

その他に、事前課題として項目の1～2つの事前学習を指示し、授業時には本教材で分かったことについて事後テスト等を活用しながら学生の学習状況を確認して、多くの学生が間違えたところを解説したり、討論したりして**反転授業**を行うことも考えられます。

また、教材の中では学生に考える場面を設けています。「どうしたらよいでしょうか」「みんなで考えてみましょう」と、考える場面を重ねていく構成としています。単純に正誤を聞く問題もありますが、**答えが出せない状況も含まれています**。そのような場面を活用して、教員が学生に「皆さんはどちらを選択しますか、選択する理由は何ですか？」と問いかけ、ディスカッションを通して価値観や態度の形成をねらうという活用もできます。

(2) 演習

シミュレーション教育を行う前の、知識レベルを合わせるために活用することができます。たとえば、本教材の自然災害単元2ではトリアージの学習をしますが、演習でトリアージを行うシミュレーション授業を行う前に、事前学習課題としておき、学生に受講証明書の提出を求めることで、シミュレーション授業にスムーズに入ることができるといった使い方も考えられます。

(3) 実習前後の課題

例えば、「看護の統合と実践」における統合看護学実習等で災害看護学実習や感染看護学実習といった科目を置いている大学では、それぞれの実習に行く前の事前学習として活用する、あるいは実習後の復習として活用することができます。

また、学内実習を行う場合に、シミュレーション場面や、教材の中に埋め込まれ

ている動画の視聴等も活用していただけます。

(4) 国家試験対策

本教材は災害看護と感染看護に関する国家試験対策として、自己学習や補講にも活用していただけます。各項目と看護師国家試験出題基準との対照表を参考にしてください（資料4）。

2) 高大連携、オープンキャンパスなどでの活用方法

看護学を紹介する際に、本教材を活用していただくことができます。たとえば、感染症パンデミックにおける看護活動の単元5「在宅における個人・家族への支援」、項目3「患者家族の健康状態の把握と感染予防のための家族への指導」では、家庭内でできる感染予防対策が細かく示されています。高校生と確認しながら、看護学について説明することができます。

3) 現任教育などでの活用方法

現場の保健師、病院の看護師、訪問看護ステーションの看護職等合計15名の方々に、本教材を試聴していただきました（資料5）。その結果、「イラスト付きの説明がわかりやすい」、「初めて業務に関わる職員への教育に使用できる」、「大規模災害編は平時の災害対応訓練としての活用や、新人研修をはじめ集合研修で活用できる」、という意見をいただいています。大学教員の皆様から、現場の方々にもご紹介いただきますようお願いいたします。

4) 内容を素早く把握するためのヒント

忙しい中で素早く内容を把握して、どの科目の、どの部分を使えそうかを把握するためのヒントをまとめています。

- (1) 本マニュアルの資料3（各項目の学習目標と作成者からのメッセージ）をご利用ください。各項目の学習内容と「作成者からの一言メッセージ」が記載されています。これを確認いただくことで、教材内容を把握することができます。

大規模災害における看護活動			
単元	項目	学習目標	作成者からの一言メッセージ
単元1 発災直後～72時間以内 の看護・保健活動	1.災害対策に関する根拠となる法律	■災害対策に関する根拠となる法律（災害対策基本法・災害救助法）について説明できる。 ■国・都道府県・市町村・住民等の役割を説明できる。	災害時に被災した自治体の保健師は、住民の健康や生命を守るために、災害対策に関する根拠となる法律に基づいて活動します。大規模な地震災害に被災した架空の一つの市の保健師が登場しますが、あなたもこの保健師の立場になったつもりで、災害対策に関する根拠となる主要な法律について学んでいただけると嬉しいです。
	2.災害の各フェーズにおける保健活動の概要	■災害サイクルを説明できる ■災害におけるフェーズに応じた保健活動の概要について説明できる	被災した住民の健康や生命を守るための、災害におけるフェーズ（段階や節目のこと）に応じた保健活動について学びます。災害発生後は、時間の経過に応じて住民の生活の場所は避難所、仮設住宅等へと移り変わりますが、ここでは、それに応じて変化する住民のニーズに対応するために必要な保健活動について考えていきます。
	3.災害対応の基本	■災害対応における基本的な考え方であるCSCAについて説明できる	災害対応の基本について、CSCA（Command and Control；指揮と連携、Safety；安全確保、Communication；情報伝達、Assessment；評価）などの基本的な知識について学習します。

図5 各項目の学習目標と作成者からのメッセージ（一部）

- (2) 本マニュアルの資料4（各項目と看護師国家試験出題基準との対照表）をご利用ください。

<大規模災害における看護活動>⇐
○単元2：発災直後～72時間以内の避難所における看護・保健活動⇐

	領域	大項目	中項目	小項目
災害 単 元 2 項 目 1	看護の統合と実践	2. 災害と看護	A. 災害時の医療を支えるしくみ	災害に関する法と制度
				災害時の医療体制
		4. 臨床実践場面における統合的な判断や対応	D. 発災からの経過に応じて被災者に提供される診療や支援を促進するための看護	専門分野の各科目で学んだ内容を統合し、臨床実践場面における状況設定問題として出題する。

図 6 各項目と看護師国家試験出題基準との対照表（一部）

- (3) JV-Campus に掲載されている PDF をご利用ください。ダウンロードすることもできます。PDF をザクッと見ていただくことで、どのような内容が含まれているかを把握していただけます。

▼

単元2 入院における個人・家族への支援

～感染症病床に第1号の患者受け入れ、さあ、どうする～

▶
[単元2のPDFファイルはこちら](#)

▶
単元2 事前テスト

▶
単元2 項目1 外来からの情報を元に、感染症病床の準備を行う

▶
単元2 項目2 患者をストレッチャーで外来から、病床まで連れてくる

▶
単元2 項目3 病室での対応と患者への説明

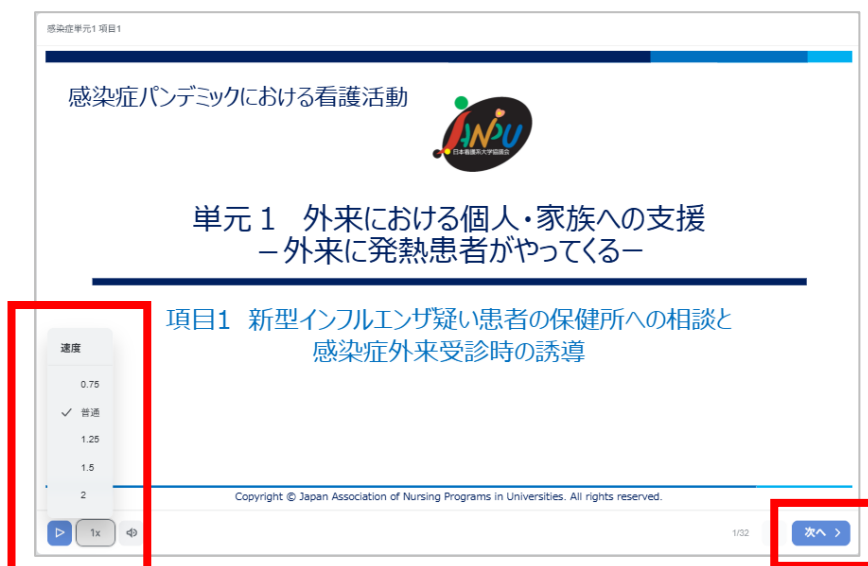
▶
単元2 項目4 安楽な呼吸と排痰法の援助を行い、PPEを脱いで病室をでる

▶
単元2 項目5 高齢患者の個室入院で必要な看護問題を考える

▶
単元2 事後テスト

図 7 JV-Campus での各単元構成表示例

(4) e-learning 教材の再生スピードを速めることができます。本教材は「次へ」を押すことで、次のスライドが展開されます。また、音声再生のスピードは左下の赤枠部分を選択していただくことで、再生スピードを変更することができます。



5. JV-Campus への登録方法

1) 推奨環境について

JV-Campus のサイト自体はスマートフォンでも閲覧可能ですが、作成した教材はスマートフォンでは閲覧が困難な状態となっていますので、PC・タブレットでの閲覧をお願い致します。

また、JV-Campus は以下のブラウザの最新版での利用をお勧めします。

- 1.クローム
- 2.マイクロソフトエッジ
- 3.サファリ

2) 登録方法

JV-Campus にある教材を利用するには、教員、学生問わず「JV-Campus へのユーザー登録」が必要となります。

- ・ トップページ右上の【Sign Up サインアップ】をクリックして、登録を行います。



図 8 JV-Campus のサインアップ場所

- ・ プライバシーポリシーと利用規約に同意いただき、ユーザ情報の入力を行います。この段階では、仮登録の状態となっておりますので次の手順を必ず行ってください。
- ・ 入力されたメールアドレスに JV-campus からアカウント確定のメールが到着しているかを確認し、メールの指示に沿ってアカウント確定作業を行ってください。未着の場合は、迷惑メールフォルダを確認ください。
- ・ JV-Campus ヘルプページでもアカウント作成方法が閲覧できます。

<https://www.jv-campus.org/type03-help/>

3) JANPU 作成教材へのアクセス方法

JV-Campus トップ画面の【機関一覧】の中から、日本看護系大学協議会を選択します。あるいは、<https://www.jv-campus.org/jvc-provider/348517/> で本協議会のページにアクセスできます。



図 9 JV-Campus 上の日本看護系大学協議会ページの入り方

- ・本協議会のページからログインをします。



図 10 日本看護系大学協議会ページからのログイン

- ・ログインでは、ユーザ登録した ID と PW を入力してください。
- ・視聴したい教材をクリックしてください。



図 11 2つの教材

4) 学生グループの作成について

JV-Campus では、教員ごとの学生グループを作ることが可能です（教員、学生のユーザ登録が済んでいることが前提です）。グループを作ると、教員が、学生の学習履歴や事前・事後課題の学習状況、成績を確認することができます。例えば、演習の事前学習課題として、「感染症单元2の終了」を課した場合、グループ内学生の单元2の学習状況を、教員が把握することができます。

- ・学生グループの作成は必須ではありません。学生グループを作らなくても教材は自由に活用いただけます。

・学生グループは JANPU 事務局で設定いたします（JV-Campus 事務局ではありません）。学生グループ化のためには、JV-Campus へ登録済みのメールアドレス（教員、学生ともに）を JANPU 事務局へ提出いただく必要があります。未登録ですとグループ化できませんのでご注意ください。学生グループ化をご希望の場合は、JANPU 事務局までメールにて一報ください。

JANPU 事務局連絡先： office@janpu.or.jp

6. 謝辞

この事業の機会をいただきました、文部科学省高等教育局医学教育課に御礼申し上げます。また、コンピテンシー作成にご協力いただいた大学の教員及び学生、看護現場の看護職の皆様、また本教材を試用し、ご意見をくださいました教員及び学生、資料の提供をいただきました各団体の皆様、教材の掲載に当たってご協力をいただいている JV-Campus の関係者様、教材作成に当たりご協力いただきました株式会社ヒューマンサイエンスの皆様、外部評価委員として様々な観点からアドバイスを下さった評価委員、専門家の皆様、そして業務の忙しい中、教材を作成・検討してくださった委員会委員の皆様に深く感謝いたします。

7. 委員会委員等

■委員長：荒木田美香子（川崎市立看護大学）

■委 員：

A.コンピテンシー・ニーズ調査チーム（○はチームリーダー）

○春山早苗（自治医科大学）、牛尾裕子（山口大学大学院）、有本梓（横浜市立大学）、大塚敏子（元相山女学園大学）、中谷淳子（産業医科大学）、鈴木美和（三育学院大学）、島田裕子（自治医科大学）、江角伸吾（宮城大学）、小寺さやか（神戸大学大学院）、斎藤照代（国際医療福祉大学）、瀬瀬朋弥（岐阜大学）

B.感染管理専門チーム（○はチームリーダー）

小松浩子（近畿大学医学部・病院運営本部）、○渡部節子（湘南医療大学）、平尾百合子（山梨県立大学）、遠藤英子（国際医療福祉大学大学院）、三橋睦子（国際医療福祉大学）、佐藤淑子（大阪公立大学）、塚本容子（北海道医療大学）、川上和美（順天堂大学）、岡田忍（川崎市立看護大学）、村上弘之（足利大学）、佐藤ゆか（元愛知医科

大学)、福井幸子(青森県立保健大学)、脇坂浩(浜松医科大学)

C. 教材開発チーム(チームリーダーは荒木田美香子委員長)

石丸美奈(千葉大学大学院)、真嶋由貴恵(大阪公立大学大学院)、原田若奈(川崎市立看護大学)、高谷知史(大手前大学)、山田小織(佐賀大学)、春日広美(千葉県立保健医療大学)

■協力者

(A. コンピテンシー・ニーズ調査チーム委員) 湯本晶代(千葉大学)、木全真理(川崎市立看護大学)、青木恵美子(川崎市立看護大学)

(C. 教材開発チーム委員) 川越明日香(熊本大学 大学教育統括管理運営機構)、高橋時市郎(東京電機大学)、杉田純一(東京医療保健大学医療保健学部医療情報学科)、内藤知佐子(愛媛大学医学部附属病院)

■専門的知識の提供

大沼麻美氏(国立精神・神経医療研究センター)、奥田博子氏(厚生労働省 国立保健医療科学院)、大塚モエミ氏(千葉県循環器病センター)、尾島俊之氏(浜松医科大学)、笠原敬氏(奈良県立医科大学)

8. 資料一覧

資料1 感染症等の健康危機管理に対応できる保健人材のコンピテンシー

資料2 本教材を大学の教育に試用した大学の学生の意見

資料3 各項目の学習目標と、作成担当者からの一言メッセージ

資料4 各項目と看護師国家試験出題基準との対照表

資料5 本教材を試聴した現場看護職の意見

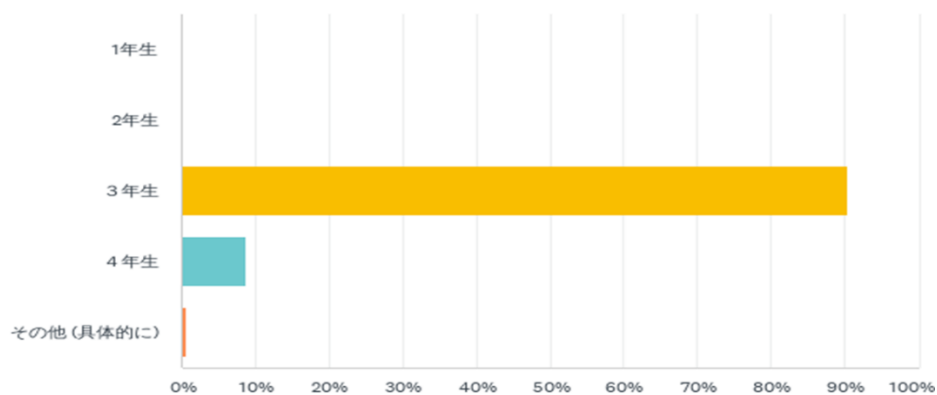
資料1. 感染症等の健康危機管理に対応できる保健人材のコンピテンシー

	JANPU 看護学士課程におけるコアコンピテンシー(2018)	学士課程の看護教育における「感染症等の健康危機管理に対応できる保健人材」のコンピテンシー	
Ⅱ. ヒューマンケアの基本に関する実践能力	看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 ①多様な価値観・信条や生活背景を持つ人を尊重する行動をとることができる。 ②人間の尊厳及び人権の意味を理解し、擁護に向けた行動をとることができる。	1	人間を取り巻く環境について理解しアセスメントに活かす基本能力
		2	健康危機発生時における人々の尊厳と人権の擁護に向けた行動をとることができる。
		3	健康危機発生時に生じる倫理的課題について説明できる。
		4	個人・組織の情報の保護に配慮し、適切な情報管理ができる。
	実施する看護を説明し意思決定を支援する能力 ①実施する看護の根拠(もしくは目的)と方法について、人々に合わせた説明ができる。 ②看護の実施にあたり、その人の意思決定を支援することができる。	5	健康危機の発生に伴う個人・集団の健康上のリスクについて根拠に基づき説明できる。
		6	健康危機発生時において、個人・家族の意思決定を支援する必要性を説明できる。
Ⅲ. 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力	根拠に基づいた看護を提供する能力 根拠に基づいた看護を提供するための理論的知識や先行研究の成果を探索し、活用できる。	7	健康危機に関する信頼性の有る情報を収集できる。
	健康レベルを成長発達に応じてアセスメントする能力 ①成長発達に応じた身体的な健康状態をアセスメントできる。 ②成長発達に応じた精神的な健康状態をアセスメントできる。 ③環境と健康状態との関係をアセスメントできる。 ④その人の成長発達に応じた変化をとらえ、包括的に健康状態をアセスメントできる。	8	健康危機の発生により影響を受けやすい個人・家族を理解し、基本的な対応策について説明できる。
Ⅳ. 特定の健康課題に対応する実践能力	急激な健康破綻と回復過程にある人を援助する能力 ①急激な健康破綻をきたす疾患・外傷による病態をアセスメントし、基本的な看護援助方法が実施できる。 ②急激な健康破綻により重篤な状態に陥った患者の病態を理解し、基本的な看護援助方法が説明できる。 ③心理的危機状態にある患者・家族のアセスメントと看護援助方法について説明できる。 ④回復過程にある患者・家族の心身の状況をアセスメントし、他(多)職種連携のもとでの早期からのリハビリテーションを通して、回復を促進するための基本的な看護援助方法が実施できる	9	健康危機のフェーズを踏まえて個人・家族の健康状態や生活への影響をアセスメントし、基本的な看護援助が実施できる。
	エンドオブライフにある人と家族を援助する能力 ①エンドオブライフにある人を全人的に理解し、その人らしさを支える看護援助方法について理解できる。 ②エンドオブライフの症状緩和のための療法・ケアを理解し、苦痛、苦悩や不安の緩和方法について理解できる。 ③看取りをする家族の援助について理解できる。	10	健康危機下における遺族の心理的ケアの必要性について説明できる。
Ⅴ. 多様なケア環境とチーム体制に関する実践能力	地域ケア体制の構築と看護機能の充実を図る能力 ①自主グループの育成、地域組織活動の促進について理解できる。 ②個人・集団・組織と連携して、地域ケア体制を構築する意義と方法について理解できる。 ③地域における健康危機管理及びその対策に関わる看護職の役割について理解できる。	11	健康危機管理の基本(予防、発生時対応、拡大防止、再発防止)について説明できる。
		12	健康危機発生時の二次的健康課題とその予防方法について説明できる。
		13	健康危機が発生した集団/組織・地域をアセスメントし、根拠に基づく対応策を説明できる。
		14	健康危機発生時に連携・協働する他職種・他機関について説明できる
		15	健康危機に応じたチーム体制とチームにおける看護職の役割を説明できる。
		16	医療機関や各種施設の健康危機管理体制を支援する保健所や都道府県の役割を説明できる。
		17	平時から健康危機管理体制を整える必要性和その方法を説明できる。
		18	生活環境(家庭・学校・職場・施設)の健康のリスクを評価し、予防対策を説明できる。
		19	健康危機管理の目的を踏まえて、トリアージ及び保健福祉的視点でのトリアージを説明できる。
		20	健康危機発生時における、医療の確保のために関係者・関係機関と調整する必要性を説明できる。
Ⅴ. 多様なケア環境とチーム体制に関する実践能力	安全なケア環境を提供する能力 ①安全なケアをチームとして組織的に提供する意義について説明できる。 ②医療事故防止対策について理解し、そのために必要な行動をとることができる。 ③感染防止対策について理解し、必要な行動をとることができる。	21	健康危機下において、専門職として自らの健康管理・安全管理を行うことができる。
	保健医療福祉チームの一員として協働し連携する能力 ①チーム医療における看護及び他職種の役割を理解し、対象者を中心とした連携と協働のあり方について説明できる。 ②保健医療福祉サービスの継続性を保障するためにチーム間の連携について説明できる。 ③地域包括ケアを推進する必要性を理解し、地域包括ケアの中の看護の役割と機能について説明できる。	22	健康危機発生時における個人・家族の健康状態や生活状況に応じた関係者・関係機関等の役割及び連携について説明できる。
		23	健康危機に対応するチームが機能を発揮するためのリーダーシップとメンバーシップのあり方について説明できる。

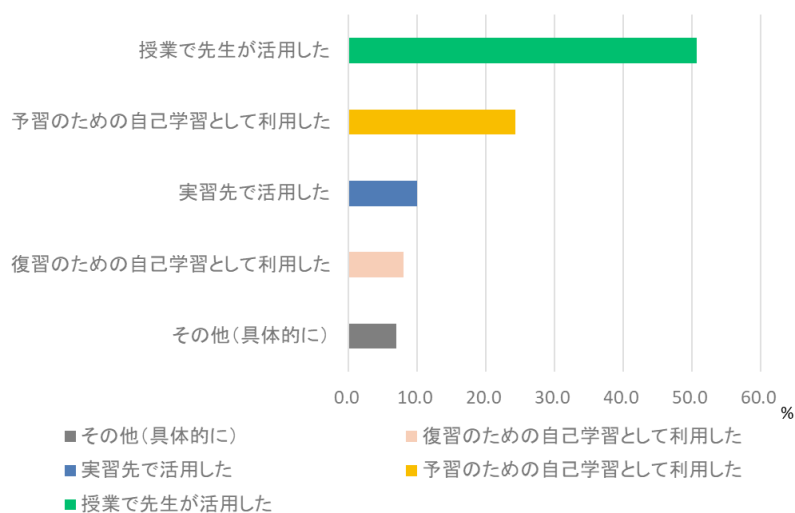
*看護学教育モデル・コア・カリキュラム(令和6年度改訂版)との整合性は今後検討を行う。

資料 2. 本教材を大学の教育に試用した大学の学生の意見（回答数 136 名）

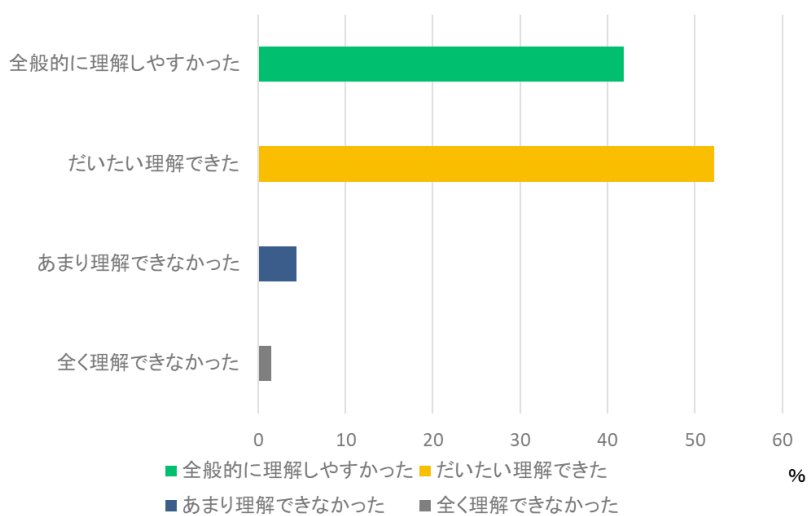
問 1 あなたは何年生ですか



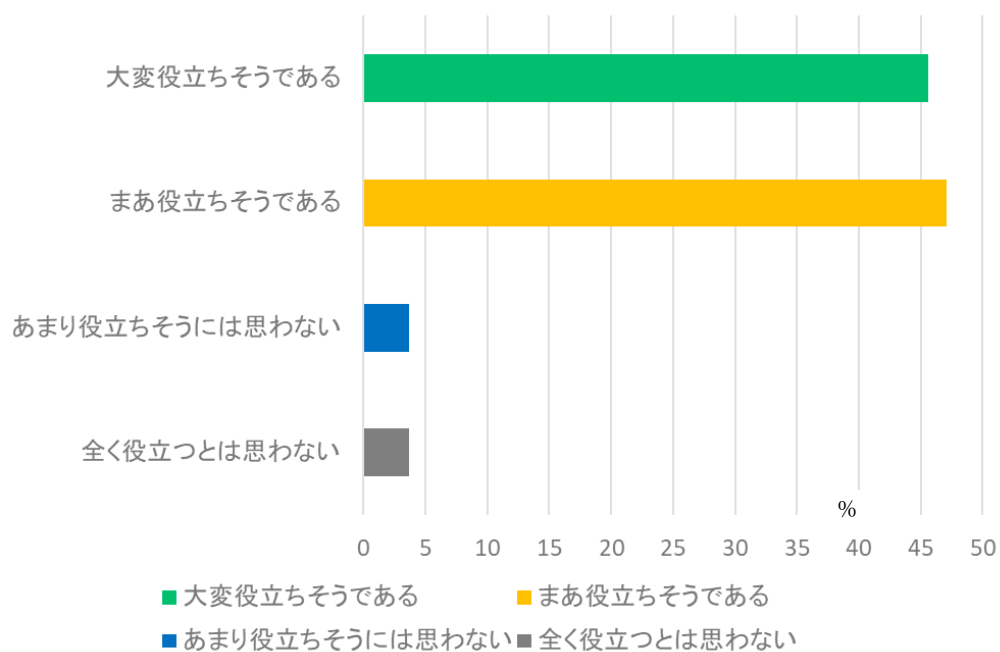
問 2 貴方の教材の使用方法は下記の、どれですか。当てはまるものすべてに○をつけて下さい。



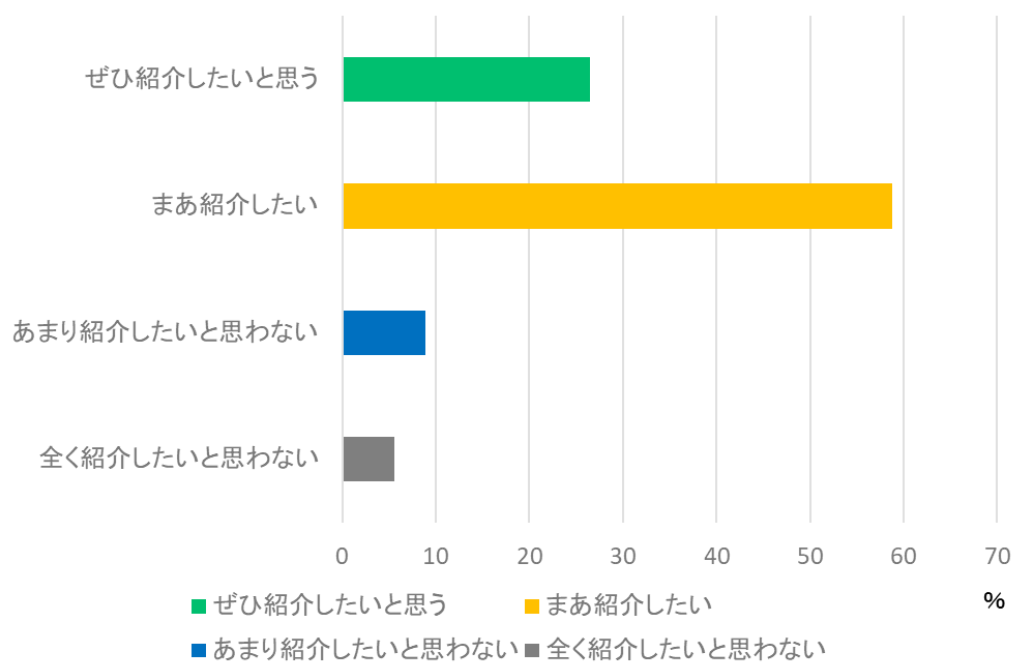
問 3 この教材は理解しやすかったですか。



問4 全般的に見てこの教材はあなたの学習に役立ちそうでしょうか



問5 この教材を友達や後輩に紹介したいと思いますか



問6 この教材の改善点及び良い点を教えてください（自由記述）

学生の自由記載のまとめ

	記述内容	回答数
教材の良い点		
	音声付きの動画で説明がわかりやすい	37
	随所に問題があるので自分で考えることができ理解しやすい	30
	教材内にも動画があるのでイメージしやすい	13
	再生速度を1.5倍速などに変更できる	11
	問題で繰り返し学習ができる	9
	自分のペースで学習できるので理解しやすい	8
	イラストがあってイメージしやすい	8
	事例を考えながら学修するのでわかりやすい	7
	テストでは正解率が出るので、自分のレベルがわかる	6
	スマホでも見れるので、どこでも学習できる	5
	事前テストと事後テストがある	4
	自分で手を動かして問題に回答できるのでよく考えることができる	3
	講義の中で問題を解く時間がある	2
	項目で学習内容がまとまっているのでポイントが把握しやすい	2
	受講証明書が発行できる	2
	授業の復習になる	1
	臨床場面をイメージすることができる	1
使いにくさや改善点		
	Webコンテンツが重い	20
	頁の拡大ボタンがあると良い	7
	ログイン方法が面倒	4
	スマホだと縦画面になるので、見にくい	3
	同じ問題が、事前事後テスト、クイズで出てくる	3
	学習に時間がかかる	2
	学習方法がわかりにくい	2
	難易度が高いものがある	2
	スライド内の文字が多い	1
	動画を増やしたほうが良い	1
	サイトの使い勝手が悪い	1
	頁を送る際に「次へ」を押さなければならない	1

資料3-1 大規模災害における看護活動			
単元	項目	学習目標	作成者からの一言メッセージ
単元1 発災直後～72時間以内 の看護・保健活動	1.災害対策に関する根拠となる法律	■ 災害対策に関する根拠となる法律（災害対策基本法・災害救助法）について説明できる。 ■ 国・都道府県・市町村・住民等の役割を説明できる。	災害時に被災した自治体の保健師は、住民の健康や生命を守るために、災害対策に関する根拠となる法律に基づいて活動します。大規模な地震災害に被災した架空の一つの市の保健師が登場しますが、あなたもこの保健師の立場になったつもりで、災害対策に関する根拠となる主要な法律について学んでいただくと嬉しいです。
	2.災害の各フェーズにおける保健活動の概要	■ 災害サイクルを説明できる ■ 災害におけるフェーズに応じた保健活動の概要について説明できる	被災した住民の健康や生命を守るための、災害におけるフェーズ（段階や節目のこと）に応じた保健活動について学びます。災害発生後は、時間の経過に応じて住民の生活の場所は避難所、仮設住宅等へと移り変わりますが、ここでは、それに応じて変化する住民のニーズに対応するために必要な保健活動について考えていきます。
	3.災害対応における基本	■ 災害対応における基本的な考え方「CSCA」について説明できる	災害対応の基本について、CSCA（Command and Control；指揮と連携、Safety；安全確保、Communication；情報伝達、Assessment；評価）などの基本的な知識について学習します。
単元2 発災直後～72時間以内 の避難所における看護・保健活動	1.災害時の医療体制	■ 災害時の医療体制について説明できる	大規模災害とくに地震災害発生時の医療体制について学びます。看護師国家試験にも出題されている災害拠点病院、救護所などの発災時の拠点となる場所やDMAT、医療救護班などの医療チームについての基本的な知識を得ることができます。
	2.災害時のトリアージ	■ 1次トリアージのアルゴリズムを説明できる ■ 発災直後に医療につなぐべき緊急度・重症度が高い対象を判断できる	発災直後には多数の傷病者が同時に発生する可能性があります。医療資源が限られる中、優先的に救助・治療・搬送すべき人を選び出さなくてはなりません。本項では、緊急度・重症度および予後を考慮して、傷病者に優先順位をつけるためのトリアージの基本について、さまざまな事例から学びます。
	3.医療ニーズが高い人々への支援	■ 医療の継続が必要な避難者のリスクをアセスメントできる ■ 医療の継続が必要な避難者の看護援助を説明できる	慢性疾患により継続治療が必要な人々や人工透析などの医療依存度が高い人々は、災害時の生活環境の変化により生命の危機に直面したり健康を損ねたりしやすく、避難生活にも困難が伴います。本項では、急性増悪や合併症を最小にするための看護援助について学びます。また、医療依存度が高い人が災害に備えられるようにするための支援を考えます。
単元3 発災直後～72時間以内 の避難所における看護・保健活動	1.避難所での生活環境の衛生対策	■ 避難所での生活環境の衛生対策について説明できる。	避難所に避難してきた人々の健康や生命を守るための、避難所での生活環境の衛生対策を学びます。避難所となった学校の見取り図等をもとに、受付や感染症の症状のある避難者を配置する所として適切な場所や、生活環境の整備のあり方等について考えていきます。
	2.避難所における災害時要配慮者への対応およびアセスメントの視点	■ 災害時要配慮者について説明できる。 ■ 要配慮者の避難場所の選定と対応について説明できる。 ■ 避難所滞在中で、支援の必要な対象を把握・判断するためのアセスメントの視点について説明できる。	災害時における要配慮者について理解し、災害時要配慮者の避難生活における困難、そして避難所における避難時の要配慮者への配慮と滞在スペースの選定、避難所に避難している人々のアセスメントと対応について学習します。登場する様々な要配慮者について、個々の情報を確認しながら、考え学んでいきます。
	3.危機的出来事に見舞われた人々への支援	■ 危機的出来事に見舞われた人々への支援として、心理的応急処置（PFA；サイコロジカル・ファーストエイド）を説明できる	大規模地震のような危機的出来事に見舞われた人々への支援として、心理的応急処置（PFA；サイコロジカル・ファーストエイド）について学習します。PFAの活動原則を理解し、シミュレーションをとおしてPFAの実際を学んでいきます。また、支援者自身のケアや同僚をサポートする際のポイントについても学習します。
	4.避難所における倫理的課題への対応	■ 避難所で看護職が対応する可能性のある倫理的課題と、課題への対応について説明できる	避難所で看護職が対応する可能性のある倫理的課題とその対応について学びます。看護職の倫理綱領やJonsenの四分割法を活用します。事例をもとに、避難所という特殊な環境下で発生する倫理的課題に対して、看護職が多様な支援者とともにどのように協働して対応していくかを考えていきます。

資料3-1 大規模災害における看護活動			
単元	項目	学習目標	作成者からの一言メッセージ
	5.リスクコミュニケーション	■ リスクコミュニケーションの基本的な考え方にに基づき、リスクコミュニケーションの方法や意思決定支援の方法について考えることができる ■ リスクコミュニケーションにおいて、地域住民や関係者へ情報提供・共有すべき内容と方法について説明できる	避難者の健康と生命を守るためのリスクコミュニケーションの原則や、その方法について避難者と保健師のやり取りの例を踏まえて学びます。また、リスクコミュニケーションにおいて情報提供や共有すべき内容や方法についても学んでいきます。
単元4 72時間以降の避難所における看護・保健活動	1.二次健康課題のアセスメントと対応（避難者個人）	■ 二次健康課題のアセスメントのポイントを説明できる ■ 二次健康課題の避難者の個人レベルでの予防方法を説明できる	災害時の避難所での生活環境による二次健康課題について学習します。避難所に避難してきたある高齢者を事例として健康状態と避難所の環境をアセスメントし、個人レベルでの二次健康課題の予防方法について考えていきます。続く項目2および項目3と合わせて学習すると、個々の避難者および避難所全体の健康管理を行う看護職の役割について総合的に学ぶことができます。
	2.避難所の生活環境による二次健康課題のリスクアセスメント（集団）	■ 二次健康課題を予防するために、避難所の生活環境がもたらす健康への影響を評価できる	災害時の避難所における二次健康課題の基本的な知識を学び、ある避難所の状況から起こりうる二次健康課題について考えます。続く項目3では本項目で検討した健康課題に対する具体的な保健活動について取り扱いますので、合わせて学習すると避難所の健康管理について効果的に学べます。また、本項目は避難所運営の演習時やその事前事後学習課題としても活用できます。
	3.避難所における二次健康課題の予防活動（集団）	■ 避難所の生活環境による二次健康課題の予防方法を集団レベルで説明できる	避難所において生じやすい感染症や熱中症、生活不活発病などの二次健康課題に対する具体的な保健活動について考えます。本項では前項目（項目2）でアセスメントした避難所での二次健康課題を取り上げていますので、項目2から項目3の順で、セットで学習すると効果的ですが、各項目のみで学習することも可能です。また、本項目は避難所運営の演習時やその事前事後学習課題としても活用できます。
	4.健康危機発生時の看護職自らの安全管理・健康管理	■ 看護職としての社会的責務と自らの健康管理・安全管理の両立を図るための対応について考えることができる。	災害時は「人材不足の中で通常以上の役割を担わなければならない」とか、「自分や家族を犠牲にして職務を全うしなければならない」など、看護職の責務を全うすることと、自分の健康や安全をまもることが対立し、悩み苦しむ状況に直面しがちです。そのような状況に一つの正解はありません。この単元では実際の状況を想定し、どのように対処するかを考えます。同時に看護職としての自分自身のケアについても学びます。
	5.健康危機対応における連携・協働 - リーダーシップとメンバーシップ -	■ 避難所看護・保健活動が継続できるように、後任の看護職に、引き継ぐ業務を説明できる ■ 災害発生時チームの一員として、効果的・効率的に看護・保健活動を展開するため、協働すべき関係者・関係機関をあげることができる ■ 避難所看護・保健活動を展開するための、リーダーシップ・メンバーシップのあり方を検討できる	被災地での看護活動はチームワークです。看護職は、被災者の健康ニーズをアセスメントし、それを必要な関係者に的確に伝える能力が求められます。看護職が被災者支援を通じて得た情報が、被災者支援対策の立案に生かされるようにすることも重要です。そこで重要になるのが看護職のリーダーシップ機能です。本単元では看護職同士の引継ぎの場面を通して、リーダーシップとマネジメント機能について学びます。

資料3-2 感染症パンデミックにおける看護活動			
単元1	項目	学習目標	作成者からの一言メッセージ
単元1 外来における個人・家族 への支援	1.新型インフルエンザ疑い患者の保健所への相談と感染症外来受診時の誘導	■ 新型インフルエンザの概要について説明できる ■ 新型インフルエンザ疑い患者への円滑な医療提供のための連携について説明できる ■ 標準予防策および必要な感染経路別予防策と个人防护具を説明できる ■ 患者と周囲の安全に配慮した感染症外来への誘導方法を説明できる	WHOが新型インフルエンザパンデミックを宣言している中、山中市に住む78歳女性の佐藤時枝さんが発熱し、新型インフルエンザが疑われています。佐藤時枝さん一家を中心にストーリーが展開します。保健所に相談し、時枝さんは山中市立総合病院の感染症外来を受診することになりました。新型インフルエンザ疑い患者が感染症外来を受診する際の、患者の誘導方法や必要な感染予防策について学びます。
	2.外来看護師による医療面接と緊急度の判断	■ 新型インフルエンザ疑い患者の医療面接とバイタルサイン測定の留意点を説明できる ■ 得られた情報から、新型インフルエンザ疑い患者の緊急度を判断できる ■ 患者の状態に応じた必要な看護を説明できる	感染症外来を受診した新型インフルエンザ疑い患者に対する医療面接において、看護師は何を質問し情報収集を行うかを学びます。新型インフルエンザ疑い患者に対し、感染対策を行いながらバイタルサインを測定する際の留意点を考えます。医療面接やバイタルサイン測定より得られた情報から患者の緊急度を判断し、外来における看護について学びます。
	3.医師の診察・検査の支援と入院の調整	■ 新型インフルエンザ疑い患者の診察介助の留意点を説明できる ■ 感染症検査の目的と実施方法を説明できる ■ 新型インフルエンザ患者が入院する際の関連部署との連携を説明できる	新型インフルエンザの診断には迅速抗原検査やPCR検査が行われますが、検体採取の際は飛沫が飛散する可能性があり、医療従事者の感染リスクが高まります。安全に検査を行うための防護方法や患者への説明、診察介助について学びます。新型インフルエンザが確定し、患者が感染症病棟へ入院する際の関連部署との連携や、病棟への確実な連絡方法を考えます。
	4.入院に関する本人・家族への説明	■ 新型インフルエンザ患者が入院する際の本人・家族への対応について説明できる	新型インフルエンザと診断され、感染症病棟への入院が必要になった患者とその家族は様々な不安を抱えています。そのような患者と家族の心理をふまえ、患者・家族に対する看護師の対応や、安心して納得して治療を受けられるための支援方法を学びます。
単元2 入院における個人・家族 への支援	1.外来からの情報を元に、感染症病床の準備を行う	■ 外来看護師より得られた情報から、感染症患者の緊急度・重症度を判断し、治療と看護援助の予測ができる ■ 治療と急変を予測した感染症病室（隔離病床）に必要な機器や物品を選択できる ■ ゾーニングによる感染予防を考慮した个人防护具（Personal Protective Equipment;PPE）、PPE着用・脱衣の手順のポスター、感染性廃棄物器、手指消毒薬、手指消毒の手順のポスター、鏡（姿見）などを、イエローゾーン、グリーンゾーンに配置できる	新型インフルエンザ疑いの患者について、得られた情報から、緊急度・重症度の判断を行い、それに応じた治療と看護援助を予測していきます。患者を病室に受け入れる前に、治療と急変を予測した機器や物品の選択と、ゾーニングによる感染予防に適した感染症病室の環境整備を考えていきます。
	2.患者をストレッチャーで外来から、病床まで連れてくる	■ 新型インフルエンザ患者を移送する際の个人防护具（PersonalProtective Equipment; PPE）を適切に選択できる。 ■ 感染症患者搬送用陰圧ストレッチャーで患者を移送する際の看護援助について説明できる。	新型インフルエンザ患者を病院内で移送する際、感染予防のための个人防护具の選択方法について学びます。また、感染症患者搬送用陰圧ストレッチャーを用いて、新型インフルエンザ患者を、外来から病室まで移送する際の看護援助について学びます。適した標準予防策・感染経路別予防策、安全な患者移送を組み合わせた援助について考えていきます。
	3.病室での対応と患者への説明	■ 診療情報と観察から得られた情報より、新型インフルエンザ患者の緊急度・重症度を判断し、必要な看護援助について説明できる。 ■ 個室に隔離された患者における心身への影響と看護援助について説明できる。	新型インフルエンザ患者における緊急度と重症度の判断方法、回復に導くための看護援助について学びます。新型インフルエンザにより、緊急で感染症病室に隔離された患者の心身への影響を学びます。また、未知のウイルスによる脅威に対して、制御するための看護援助について考えていきます。
	4.安楽な呼吸と排痰法の援助を行い、PPEを脱いで病室をでる	■ 新型インフルエンザの感染予防を踏まえた、安楽な呼吸と排痰法の援助を説明できる。 ■ 新型インフルエンザの曝露予防を考慮した感染症病棟の病室からの安全な退室方法について説明できる。	新型インフルエンザにより呼吸困難な状態にある患者に対して、感染予防を踏まえた安楽な呼吸と排痰法の援助について学びます。新型インフルエンザに曝露された个人防护具の脱衣など、感染症病室を退室する際の適切な対応について考えていきます。

資料3-2 感染症パンデミックにおける看護活動			
	5.高齢患者の個室入院に必要な看護問題を考える	■ 個室隔離の高齢患者における廃用症候群のリスクアセスメントが行え、予防策を説明できる。 ■ 個室隔離の高齢患者におけるせん妄のリスクアセスメントが行え、予防策を説明できる。	新型インフルエンザにより、長期間の個室隔離による行動制限と治療による安静を受けた高齢患者の状況を学び、廃用症候群とせん妄のリスクについて学びます。加えて、感染症病室の高齢患者における廃用症候群とせん妄の予防策について考えていきます。
単元3 施設における個人・家族への支援	1.保健所等の連絡を受けて、入所者の健康状態を観察し、情報を整理する	■ 高齢者施設の機能と高齢者の特徴から、感染リスクについて考える。 ■ 感染が疑われる入所者と濃厚接触者を特定できる。 ■ 介護職員へ入所者の観察ポイントを説明できる。	単元3は、新型インフルエンザ患者に濃厚接触した特別養護老人ホームの入所者や職員を対象に対応について学びます。項目1では市中感染が高齢者施設内に広がっていくプロセスについて、施設の構造やサービスの内容、利用者の特徴などから学び、看護職が職員の協力を得ながら実施する初期対応について考えていく内容になっています。
	2.感染症の疑いがある入所者からの感染を防ぐ	■ 感染の疑いのある入所者に対応した、感染拡大防止について説明できる ■ 事例を用いてコホーティングとゾーニングができる	感染および濃厚接触者の疑いのある入所者が特定された後について、感染症発生時のフローに従った対応について学んでいきます。看護職員が実施する感染症患者への対応の他、感染拡大防止のためのコホーティングとゾーニングについて、視聴者には感染症患者が特定された1階フロアの見取り図をもとに、図面上で実際にコホーティングやゾーニングを行うことで、基礎知識の応用により学びが深まる内容になっています。
	3.職員の健康状態を判断して感染拡大予防とケアの継続をはかる	■ 感染が疑われる職員について把握すべき情報と対応を説明できる ■ 職員が欠員となる原因と、人員確保のための支援について説明できる	施設内で感染症対策担当者である看護師長が、感染症の疑いのある職員をどのように特定するのか、また、職員の安全確保や施設内の感染拡大防止のために、どのような対応がなされているかについて学びます。さらに、感染した職員に対する社会からの差別や風評被害等について、また、職員が欠員となった場合にどのように業務を継続していくべきかについて考えていく内容になっています。
	4.対策本部の構築と検討すべき対応	■ 法的根拠に基づいた高齢者施設の感染症対策について説明できる ■ 高齢者施設において感染症が発生した場合の対応フローについて説明できる	基準省令で義務付けられている感染対策委員会設置に関して、委員それぞれの役割を学び、感染症発生時の対応フローの理解や、感染症発生時を想定した訓練の動画を視聴することで、特別養護老人ホームそのものの理解と、施設に合った感染対策について考えていきます。また、クラスターが発生時の感染管理認定看護師の派遣から、施設における感染対策で盲点となっている点について考えることができる内容になっています。
	5.急変し、死亡した入所者の家族への対応	■ 暮らしの場である特別養護老人ホームの機能から看取りのあり方について説明できる ■ 感染拡大による行動制限下において、入所者と家族のQOLを考慮した援助について説明できる	特別養護老人ホームにおける看取りの現状を理解し、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）を基にした一人の入所者への取組みを通して、支援について考えることができます。また、感染対策の状況においては、家族の面会制限や遺体の取り扱いが通常と異なることを知り、家族への支援のあり方や、死者の尊厳について考える教材になっています。
単元4 保健所における個人・家族への支援	1.感染症発生届を受けた後の保健所の対応と保健師の役割	■ 感染症発生届を受けた後の保健所の対応の流れを説明できる ■ 感染症発生届の確認のポイントを説明できる	感染症発生届を受けた後の保健所の対応の流れと感染症発生届の確認のポイントを学びます。感染症に罹患した住民を把握する最初の書類である感染症発生届の項目の理解を深めることによって、感染拡大防止や重症化予防に向けた情報収集が可能となります。
	2.積極的疫学調査の実際	■ 積極的疫学調査の流れを説明できる ■ 積極的疫学調査における保健師の基本姿勢を説明できる	感染症発生届をもとに、保健師が行う積極的疫学調査の流れについて学びます。感染成立の3要因と感染対策の知識をもとに、感染症を発症した対象者とその家族に発症前から発症後の行動を丁寧に尋ね、感染拡大の防止対策を講じます。保健師が行う対象者の家族への積極的疫学調査の流れについてシミュレーションを通して学びます。
	3.濃厚接触者の特定と感染拡大のリスクの判定	■ 積極的疫学調査の結果から、濃厚接触者を特定できる ■ 重症化リスクのある対象者を特定できる ■ 患者および濃厚接触者の行動調査から感染が広がる可能性を予測できる	積極的疫学調査の結果に基づき、濃厚接触者および重症化のリスクのある対象者を特定するプロセスを学びます。対象者の特定にあたっては、濃厚接触者の判断基準を用います。また、重症化のリスク因子を学び、重症化しやすい対象者を特定していきます。

資料3-2 感染症パンデミックにおける看護活動			
単元4 保健所における個人・家族への支援	4.関係機関・施設とのリスクコミュニケーション	■適切なリスクコミュニケーションについて説明できる ■パンデミックを想定した平時（準備期）からのリスクコミュニケーションについて述べることできる ■倫理的に配慮したリスクコミュニケーションのあり方について説明できる	新型インフルエンザの患者が発生した場合、感染症法に基づき患者個人や濃厚接触者となった家族等に対して、迅速かつ適切なまん延防止のための行動が取れるよう保健師が協力要請を行うリスクコミュニケーションのポイントについて学びます。また、自治体が地域住民に対して行う感染症のリスクコミュニケーションについて、平時・有事それぞれのポイントと倫理面への配慮の在り方について事例を通し具体的に考えていきます。
	5.濃厚接触者の健康観察	■濃厚接触者の健康観察について法的根拠と方法を説明できる ■濃厚接触者の経過観察期間の保健指導について説明できる	新型インフルエンザの濃厚接触者が特定されたら、濃厚接触者の健康観察の根拠と方法、経過観察期間の具体的な保健指導内容について学びます。また、重症化リスクのある濃厚接触者への対応について、家族の不安へも配慮しながら、濃厚接触者の特徴に応じた保健指導の詳細な内容について、事例を通し具体的に考えていきます。
単元5 在宅における個人・家族への支援	1.濃厚接触者がいる家庭への訪問準備	■訪問看護ステーションの管理者へ報告する内容を説明できる ■訪問看護ステーションの管理者に確認する内容を説明できる	新型インフルエンザの濃厚接触者となった訪問看護サービスの利用者への訪問準備を学びます。利用者とその家族への感染対策や訪問看護ステーションの職員の感染予防のため、訪問看護ステーションの看護師が訪問する前に管理者への報告と確認内容を考えていきます。
	2.訪問看護を実施する際の感染防止対策と近所への配慮	■感染症の濃厚接触者となった利用者への訪問看護の実際を考えることができる。 ■近隣住民への対応、個人情報保護など、看護師に必要な倫理的配慮について説明できる。 ■濃厚接触者を訪問後の看護師自身の健康管理について説明できる。	新型インフルエンザの濃厚接触者となった利用者への訪問看護について学びます。利用者宅の間取りや家族構成などを考慮しながら、感染防止対策を実施した訪問看護の実際について考えてみましょう。加えて、訪問看護師に必要な倫理的配慮や、濃厚接触者を訪問した後の訪問看護師の健康管理について学びます。
	3.患者家族の健康状態の把握と感染予防のための家族への指導	■家庭内に濃厚接触者がいる場合のゾーニングについて説明できる。 ■家庭内の濃厚接触者の感染予防について指導内容を説明できる。 ■外出自粛時の家族内の活動等への配慮事項を説明できる。	新型インフルエンザの濃厚接触者となった家族への、感染予防のための保健指導内容を学びます。病院や施設でのゾーニングの考え方を応用となります。家庭内の見取り図などをもとに、感染予防しつつ食事、入浴、洗面、家族のだんらん等の生活に配慮しながら、家族成員の特徴に応じた保健指導内容を考えていきます。

資料4 各項目と看護師国家試験出題基準との対照表

<大規模災害における看護活動>

○単元1：発災直後～72時間以内の看護・保健活動

	領域	大項目	中項目	小項目
災害単元1 項目1	看護の統合と実践	2. 災害と看護	A. 災害時の医療を支えるしくみ	災害に関する法と制度

	領域	大項目	中項目	小項目
災害単元1 項目2	看護の統合と実践	2. 災害と看護	B. 災害各期の特徴と看護	災害各期の特徴
				災害時の被災者・支援者の身体反応と心理過程
				災害時に生じやすい健康被害の特徴
		4. 臨床実践場面における統合的な判断や対応	D. 発災からの経過に応じて被災者に提供される診療や支援を促進するための看護	災害各期における要支援者を含むすべての被災者への看護

	領域	大項目	中項目	小項目
災害単元1 項目3	看護の統合と実践	2. 災害と看護	A. 災害時の医療を支えるしくみ	災害時の医療体制
		4. 臨床実践場面における統合的な判断や対応	D. 発災からの経過に応じて被災者に提供される診療や支援を促進するための看護	

<大規模災害における看護活動>

○単元2：発災直後～72時間以内の避難所における看護・保健活動

	領域	大項目	中項目	小項目
災害単元2 項目1	看護の統合と実践	2. 災害と看護	A. 災害時の医療を支えるしくみ	災害に関する法と制度
				災害時の医療体制
		4. 臨床実践場面における統合的な判断や対応	D. 発災からの経過に応じて被災者に提供される診療や支援を促進するための看護	専門分野の各科目で学んだ内容を統合し、臨床実践場面における状況設定問題として出題する。

	領域	大項目	中項目	小項目
災害単元2 項目2	必修問題	16. 診療に伴う看護技術	F. 救命救急処置	トリアージ
	疾病の成り立ちと回復の促進	6. 循環機能	B. 血管系の疾患の病態と診断・治療	挫滅<圧挫>症候群<crush syndrome>
	看護の統合と実践	2. 災害と看護	A. 災害時の医療を支えるしくみ	災害に関する法と制度
				災害時の医療体制
		4. 臨床実践場面における統合的な判断や対応	c. 発災からの経過に応じて被災者に提供される診療や支援を促進するための看護	専門分野の各科目で学んだ内容を統合し、臨床実践場面における状況設定問題として出題する。

	領域	大項目	中項目	小項目
災害単元2 項目3	成人看護学	14. 内部環境（体液量、電解質、酸塩基平衡）調節機能障害のある患者の看護	C. 治療を受ける患者への看護	血液透析
		15. 内分泌機能障害のある患者の看護	C. 治療を受ける患者への看護	インスリン補充療法
	小児看護学	6. 特別な状況にある子どもと家族への看護	a. 災害を受けた子どもと家族への看護	災害による子どもへの影響とストレス
				災害時における緊急度の把握・トリアージ
	看護の統合と実践	2. 災害と看護	A. 災害時の医療を支えるしくみ	災害時の医療体制
			B. 災害各期の特徴と看護	災害各期の特徴 災害時の被災者・支援者の身体反応と心理過程 災害時に生じやすい健康被害の特徴 災害各期における要支援者を含むすべての被災者への看護
		4. 臨床実践場面における統合的な判断や対応	D. 発災からの経過に応じて被災者に提供される診療や支援を促進するための看護	専門分野の各科目で学んだ内容を統合し、臨床実践場面における状況設定問題として出題する。

<大規模災害における看護活動>

○単元3： 発災直後～72時間以内の避難所における看護・保健活動

	領域	大項目	中項目	小項目
災害単元3 項目1	看護の統合と実践	2. 災害と看護	B. 災害各期の特徴と看護	災害各期における要支援者を含むすべての被災者への看護

	領域	大項目	中項目	小項目
災害単元3 項目2	老年看護学	9. 多様な場で生活する高齢者を支える看護	G. 避難生活を送る高齢者の看護	避難所での生活と健康維持 災害における高齢者の心理的支援
	小児看護学	6. 特別な状況にある子どもと家族への看護	B. 災害を受けた子どもと家族への援助	災害による子どもへの影響とストレス 災害を受けた子どもと家族への援助
	在宅看護論／ 地域・在宅看護論	3. 地域・在宅看護における安全と健康危機管理	B. 災害による暮らしへの影響	発災時の対応と環境の変化
	看護の統合と実践	2. 災害と看護	B. 災害各期の特徴と看護	災害時の被災者・支援者の身体反応と心理過程
				災害各期における要支援者を含むすべての被災者への看護

	領域	大項目	中項目	小項目
災害単元3 項目3	看護の統合と実践	2. 災害と看護	B. 災害各期の特徴と看護	災害時の被災者・支援者の身体反応と心理過程
	看護の統合と実践	2. 災害と看護	B. 災害各期の特徴と看護	災害各期における要支援者を含むすべての被災者への看護

	領域	大項目	中項目	小項目
災害 単 元 3 項 目 4	基礎看護学	1. 看護の基本となる概念	D. 看護における倫理	倫理原則、職業倫理 患者の権利と擁護 倫理的葛藤と対応

	領域	大項目	中項目	小項目
災害 単 元 3 項 目 5	看護の統合と実践	2. 災害と看護	B. 災害各期の特徴と看護	災害各期における要支援者を 含むすべての被災者へ の看護

＜大規模災害における看護活動＞

○単元４： 72 時間以降の避難所における看護・保健活動

	領域	大 項 目	中 項 目	小 項 目
災害 単 元 ４ 項 目 １	老年看護学	9. 多様な場で生活する高齢者を支える看護	G. 避難生活を送る高齢者の看護	避難所での生活と健康維持
				災害における高齢者の心理的支援
	在宅看護論／地域・在宅看護論	3. 地域・在宅看護における安全と健康危機管理	B. 災害による暮らしへの影響	発災時の対応と環境の変化
	看護の統合と実践	2. 災害と看護	B. 災害各期の特徴と看護	災害各期の特徴
				災害時の被災者・支援者の身体反応と心理過程
				災害時に生じやすい健康被害の特徴
				災害各期における要支援者を含むすべての被災者への看護

	領域	大 項 目	中 項 目	小 項 目
災害 単 元 ４ 項 目 ２	小児看護学	6. 特別な状況にある子どもと家族への看護	B. 災害を受けた子どもと家族への看護	災害による子どもへの影響とストレス
	看護の統合と実践	2. 災害と看護	B. 災害各期の特徴と看護	災害各期の特徴
				災害時の被災者・支援者の身体反応と心理過程
				災害時に生じやすい健康被害の特徴
				災害各期における要支援者を含むすべての被災者への看護
		4. 臨床実践場面における統合的な判断や対応	D. 発災からの経過に応じて被災者に提供される診療や支援を促進するための看護	専門分野の各科目で学んだ内容を統合し、臨床実践場面における状況設定問題として出題する。

	領域	大項目	中項目	小項目
災害単元4項目3	疾病の成り立ちと回復の促進	5. 呼吸機能	A. 呼吸器系の疾患の病態と診断・治療	肺循環障(肺塞栓症)
		6. 循環機能	B. 血管系の疾患の病態と診断・治療	深部静脈血栓症
	老年看護学	7. 高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護	D. 高齢者に特有な疾患・障害の予防と看護	脱水症
	看護の統合と実践	2. 災害と看護	B. 災害各期の特徴と看護	災害各期の特徴
				災害時の被災者・支援者の身体反応と心理過程
				災害時に生じやすい健康被害の特徴
		4. 臨床実践場面における統合的な判断や対応	D. 発災からの経過に応じて被災者に提供される診療や支援を促進するための看護	災害各期における要支援者を含むすべての被災者への看護
				専門分野の各科目で学んだ内容を統合し、臨床実践場面における状況設定問題として出題する。

	領域	大項目	中項目	小項目
災害単元4項目4	看護の統合と実践	1. 看護におけるマネジメント	A. 看護におけるマネジメントの目的と方法	看護組織の構成と職務
			C. 看護業務のマネジメント	複数の看護業務が同時に発生した場合の判断や対処方法
			F. 看護師の働き方のマネジメント	ワーク・ライフ・バランスを促進する働き方
		4. 臨床実践場面における統合的な判断や対応	D. 発災からの経過に応じて被災者に提供される診療や支援を促進するための看護	専門分野の各科目で学んだ内容を統合し、臨床実践場面における状況設定問題として出題する。

	領域	大項目	中項目	小項目
災害単元4項目5	精神看護学	1. 精神保健の基本	E. 災害時の精神保健	災害時の精神保健医療活動
				災害時の精神保健に関する初期対応
				災害派遣精神医療チーム＜DPAT＞
	看護の統合と実践	1. 看護におけるマネジメント	D. 看護業務に関する情報に係る技術と取扱い	医療・看護業務に関する情報の活用と保管
		2. 災害と看護	A. 災害時の医療を支えるしくみ	災害時の医療体制
			B. 災害各期の特徴と看護	災害各期の特徴

<感染症パンデミックにおける看護活動>

○単元1： 外来における個人家族への支援外来に発熱患者がやってくる

	領域	大項目	中項目	小項目
感染症単元1 項目1	必修問題	15. 患者の安全・安楽を守る看護技術	C. 感染防止対策	標準予防策<スタンダードプリコーション>
				感染経路別予防策
				必要な防護用具（手袋、マスク、ガウン、ゴーグル）の選択・着脱
	疾病の成り立ちと回復の促進	3. 基本的な病因とその成り立ち	C. 人と病原体の関わり	感染源と感染経路
				ウイルス
	健康支援と社会保障制度	7. 公衆衛生における感染症と対策	A. 感染症の基本	感染症の成立と予防
			B. 主要な感染症と動向	感染制御
	基礎看護学	3. 看護における基本技術	e. 感染防止対策	新興感染症
				感染の成立と予防
				標準予防策<スタンダードプリコーション>と感染経路別予防策

	領域	大項目	中項目	小項目
感染症単元1 項目2	必修問題	11. 徴候と疾患	a. 主要な疾患による健康障害	感染症
	疾病の成り立ちと回復の促進	4. 疾病に対する医療	A. 診断の基本と方法	医療面接（問診）、身体診察（視診、触診、聴診、打診）
	成人看護学	4. 救急看護、クリティカルケア	B. 救急看護・クリティカルケアの基本	感染症への対応
		10. 呼吸機能障害のある患者の看護	D. 病期や機能障害に応じた看護	呼吸器感染症（肺炎、気管支炎、胸膜炎、肺結核、膿胸）

	領域	大項目	中項目	小項目
感染症単元1 項目3	必修問題	15. 患者の安全・安楽を守る看護技術	C. 感染防止対策	標準予防策<スタンダードプリコーション>
	疾病成り立ちと回復の促進	4. 疾病に対する医療	A. 診断の基本と方法	検体検査
	健康支援と社会保障制度	7. 公衆衛生における感染症と対策	A. 感染症の基本	院内感染と予防
	基礎看護学	3. 看護における基本技術	F. 感染防止対策	標準予防策<スタンダードプリコーション>と感染経路別
	成人看護学	4. 救急看護、クリティカルケア	B. 救急看護・クリティカルケアの基本	感染症への対応

	領域	大項目	中項目	小項目
感染症 単元 1 項目 4	成人 看護 学	3. 急性期にある患者と家族 の看護	A. 急性期にある患者と家族 の特徴	身体的特徴
				心理的特徴
				社会的特徴
		4. 救急看護、クリティカル ケア	B. 救急看護・クリティカル ケアの基本	感染症への対応

<感染症パンデミックにおける看護活動>

○単元2：入院における個人・家族への支援

	領域	大項目	中項目	小項目
感 染 症 単 元 2 項 目 1	必修問題	16. 診療に伴う看護技術	E. 呼吸管理	酸素療法の原則
				鼻腔カニューラ
				酸素マスク
				ネブライザー
	疾病の成り立ちと回復の促進	5. 呼吸機能	A. 呼吸器系の疾患の病態と診断・治療	肺炎
		10. 全身の感染性疾患	A. 感染性疾患の病態と診断・治療	ウイルスによる感染症（インフルエンザ）
	健康支援と社会保障制度	7. 公衆衛生における感染症と対策	A. 感染症の基本	感染症の成立と予防
				院内感染と予防
				感染制御
	基礎看護学	3. 看護における基本技術	F. 感染防止対策	感染の成立と予防
				標準予防策<スタンダードプリコーション>と感染経路別予防策
				感染拡大の防止の対応
	成人看護学	4. 救急看護、クリティカルケア	B. 救急看護・クリティカルケアの基本	感染症への対応
		10. 呼吸機能障害のある患者の看護	C. 治療を受ける患者の看護	酸素療法
			D. 病期や機能障害に応じた看護	呼吸器感染症(肺炎,気管支炎,胸膜炎,肺結核、膿胸)
	在宅看護論／地域・在宅看護論	6. 症状・疾患・治療に応じた地域・在宅看護	C. 主な治療等に応じた在宅看護	酸素療法

	領域	大 項 目	中 項 目	小 項 目
感 染 症 単 元 2 項 目 2	必修問題	4. 日常生活援助技術	C. 活動と休息	移送
		15. 患者の安全・安楽を守る看護技術	C. 感染防止対策	標準予防策＜スタンダードプリコーション＞
				感染経路別予防策
				手指衛生
	必要な防護用具（手袋、マスク、ガウン、ゴーグル）の選択・着脱			
	基礎看護学	3. 看護における基本技術	F. 感染防止対策	標準予防策＜スタンダードプリコーション＞と感染経路別予防策
感染拡大の防止の対応				

	領域	大項目	中項目	小項目
感染症単元2項目3	疾病の成り立ちと回復の促進	5. 呼吸機能	A. 呼吸器系の疾患の病態と診断・治療	炎症性疾患（気管支炎、肺炎、間質性肺炎、胸膜炎）
			C. 体液調節の疾患の病態と診断・治療	水・電解質の異常（脱水、浮腫、低ナトリウム血症、高カリウム血症）
				酸塩基平衡の異常（アシドーシス、アルカローシス）
	基礎看護学	5. 診療に伴う看護技術	A. 呼吸、循環、体温調整	酸素吸入の適応と方法
	成人看護学	10. 呼吸機能障害のある患者の看護	D. 病期や機能障害に応じた看護	呼吸器感染症（肺炎、気管支炎、胸膜炎、肺結核、膿胸）
		14. 内部環境（体液量、電解質、酸塩基平衡）調節機能障害のある患者の看護	B. 検査・処置を受ける患者への看護	腎機能検査（尿、血液）
	老年看護学	7. 高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護	B. 高齢者に特有な疾患・障害のアセスメント	脱水症

	領域	大 項 目	中 項 目	小 項 目
感 染 症 単 元 2 項 目 4	必修問題	16. 診療に伴う看護技術	E. 呼吸管理	酸素療法の原則
				気管内吸引
				体位ドレナージ
	基礎看護学	3. 看護における基本技術	F. 感染防止対策	標準予防策<スタンダードプ リコーション>と感染 経路別予防策
			H. 安楽の確保	安楽な姿勢・体位の保持
				安楽を提供するためのケア
		5. 診療に伴う看護技術	A. 呼吸、循環、体温調整	酸素吸入の適応と方法
				口腔内・鼻腔内・気管内吸引 の適応と方法
				排痰法の適応と方法

	必修問題	14. 日常生活援助技術	C. 活動と休息	廃用症候群の予防
感染症単元2 項目5	疾病の成り立ちと回復の促進	3. 基本的な病因とその成り立ち	B. 生体の障害	廃用症候群
		17. 精神機能	A. 精神・心身の疾患の病態と診断・治療	せん妄
	成人看護学	7. リハビリテーションの特徴と看護	C. 障害に対する受容と適応への看護	廃用症候群の予防
	老年看護学	3. 高齢者の健康	A. 高齢者の健康と疾病	高齢者の健康の特徴
				高齢者の疾病の特徴
		5. 高齢者の生活を支える看護	B. 高齢者の安全な活動への援助	活動の縮小の影響(廃用症候群、フレイル、閉じこもり)
		6. さまざまな健康状態や受療状況に応じた高齢者の看護	J. リハビリテーションを受ける高齢者の看護	リハビリテーションを受ける高齢者の特徴
				身体機能・認知機能に応じたリハビリテーションにおける看護

<感染症パンデミックにおける看護活動>

○単元3：施設における個人・家族への支援

	領域	大項目	中項目	小項目
感染症単元3 項目1	疾病の成り立ちと回復の促進	4. 疾病に対する医療	D. 医療による健康被害	院内感染
	健康支援と社会保障制度	4. 社会保険制度の基本	C. 介護保険制度	介護保険法
		11. 人々の健康を支える職種やサービス提供体制に関する法や施策	C. サービスの提供体制	介護老人保健施設等
	基礎看護学	3. 看護における基本技術	F. 感染防止対策	感染拡大の防止の対応

	領域	大項目	中項目	小項目
感染症単元3 項目2	必修問題	15. 患者の安全・安楽を守る看護技術	C. 感染防止対策	必要な防護用具（手袋、マスク、ガウン、ゴーグル）の選択・着脱
	疾病の成り立ちと回復の促進	4. 疾病に対する医療	D. 医療による健康被害	院内感染
	基礎看護学	3. 看護における基本技術	F. 感染防止対策	標準予防策<スタンダードプリコーション>と感染経路別予防策
				感染拡大の防止の対応

	領域	大項目	中項目	小項目
感染症単元3 項目3	基礎看護学	3. 看護における基本技術	F. 感染防止対策	感染拡大の防止の対応
	老年看護学	9. 多様な場で生活する高齢者の暮らしと看護を支える看護	B. 介護保険施設に入所する高齢者の暮らしと看護	介護保険施設の種類と特徴
				介護保険施設における健康管理
				入所者の暮らしの特徴と看護の役割
			F. 多職種連携、チームアプローチ	介護職員の専門性と役割の共有
	看護の統合と実践	1. 看護におけるマネジメント	E. 医療安全を維持する仕組みと対策	安全管理体制整備
		4. 臨床実践場面における統合的な判断や対応	C. 看護の提供者が、看護場面において自身の安全を確保するための総合的な判断や対応	

	領域	大項目	中項目	小項目
感染症単元3項目4	健康支援と社会保障制度	5. 社会福祉の基本	G. 高齢者に関する制度	老人福祉法
	基礎看護学	3. 看護における基本技術	F. 感染防止対策	感染拡大の防止の対応
	老年看護学	4. 老年看護の基本	C. 高齢者の生活を支える制度と施策	介護保険制度
		9. 多様な場で生活する高齢者を支える看護	B. 介護保険施設に入所する高齢者の暮らしと看護	介護保険施設の種類と特徴
				介護保険施設における健康管理
				入所者の暮らしの特徴と看護の役割
			F. 多職種連携、チームアプローチ	介護職員の専門性と役割の共有
				多職種の中での専門性の発揮
				目標達成に向けた連携の方法

	領域	大項目	中項目	小項目
感染症単元3項目5	基礎看護学	3. 看護における基本技術	I. 終末期のケア	終末期の患者のケア 終末期の家族のケア 死亡後のケア
	成人看護学	9. 終末期にある患者および緩和ケアを必要とする患者と家族への看護	C. 臨死期の看護	体的特徴とケア 精神的特徴とケア 家族の悲嘆へのケア、代理意思決定支援

<感染症パンデミックにおける看護活動>

○単元4：保健所における個人・家族への支援

	領域	大項目	中項目	小項目
感染症 単元 4 項目 1	必修問題	9. 主な看護活動の場と看護の機能	A. 看護活動の場と機能・役割	保健所
	健康支援と 社会保障制度	6. 健康と公衆衛生	B. 公衆衛生の実施機関	保健所
		7. 公衆衛生における感染症と対策	A. 感染症の基本	感染症の成立と予防 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 <感染症法>
			B. 主要な感染症と動向	新興感染症

	領域	大項目	中項目	小項目
感染症 単元 4 項目 2	必修問題	9. 主な看護活動の場と看護の機能	A. 看護活動の場と機能・役割	保健所
	健康支援と 社会保障制度	6. 健康と公衆衛生	B. 公衆衛生の実施機関	保健所
			C. 疫学的方法に基づく公衆衛生	疫学的因果関係の推定 臨床疫学とエビデンス
		7. 公衆衛生における感染症と対策	A. 感染症の基本	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 <感染症法>
			B. 主要な感染症と動向	新興感染症

	領域	大項目	中項目	小項目
感染症 単元 4 項目 3	必修問題	13. 看護における基本技術	A. コミュニケーション	言語的コミュニケーション
				非言語的コミュニケーション
				面接技法
	健康支援と 社会保障制度	7. 公衆衛生における感染症と対策	A. 感染症の基本	感染制御
	基礎看護学	3. 看護における基本技術	F. 感染防止対策	感染拡大の防止の対応

	領域	大項目	中項目	小項目
感染症 単 元 4 項 目 4	老年看護学	1. 高齢者の理解の基本となる概念	C. 高齢者のいる家族の理解	高齢者のいる家族の発達課題
		6. さまざまな健康状態や受療状況に応じた高齢者の看護	B. 急性期の高齢者への看護	急性期の高齢者の特徴
		7. 高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護	B. 高齢者に特有な疾患・障害のアセスメント	老年期に特有のその他の疾患や症候
			C. 高齢者に特有な疾患・障害の治療	感染症

	領域	大項目	中項目	小項目
感染症 単 元 4 項 目 5	老年看護学	1. 高齢者の理解の基本となる概念	C. 高齢者のいる家族の理解	高齢者のいる家族の発達課題
		6. さまざまな健康状態や受療状況に応じた高齢者の看護	B. 急性期の高齢者への看護	急性期の高齢者の特徴
		7. 高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護	B. 高齢者に特有な疾患・障害のアセスメント	老年期に特有のその他の疾患や症候
			C. 高齢者に特有な疾患・障害の治療	感染症

<感染症パンデミックにおける看護活動>

○単元5：在宅における個人・家族への支援

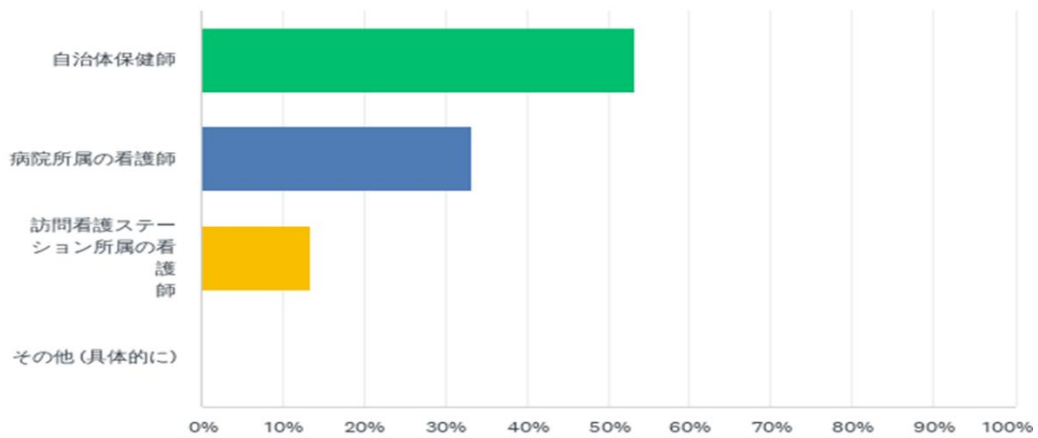
	領域	大項目	中項目	小項目
感 染 症 単 元 5 項 目 1	必修問題	9. 主な看護活動の場と看護の機能	A. 看護活動の場と機能・役割	訪問看護ステーション
	健康支援と社会保障制度	11. 人々の健康を支える職種やサービス提供体制に関する法や施策	C. サービスの提供体制	訪問看護ステーション
	在宅看護論／ 地域・在宅看護論	2. 地域・在宅看護における基盤となる概念	A. 在宅療養者を取り巻く環境の理解と健康課題	暮らしの場で看護する基本姿勢
		4. 地域・在宅看護実践をめぐる制度の概要	A. 訪問看護制度の理解	訪問看護の対象と提供方法
		5. 療養の場に応じた地域・在宅看護	A. 病期に応じた在宅療養者への看護	慢性期にある在宅療養者と家族の看護
		6. 症状・疾患・治療に応じた地域・在宅看護	B. 主な疾患等に応じた在宅看護	呼吸器疾患
			C. 主な治療等に応じた在宅看護	酸素療法
		8. 地域ケアシステムにおける多職種連携	E. 医療機関との連携	双方向で行う連携の目的
				看護の役割

	領域	大項目	中項目	小項目
感染症 単元 5 項目 2	必修問題	15. 患者の安全・安楽を守る看護技術	C. 感染防止対策	標準予防策<スタンダードプリコーション>
				必要な防護用具（手袋、マスク、ガウン、ゴーグル）の選択・着脱
	健康支援と社会保障制度	11. 人々の健康を支える職種やサービス提供体制に関する法や施策	C. サービスの提供体制	訪問看護ステーション
	基礎看護学	3. 看護における基本技術	F. 感染防止対策	標準予防策<スタンダードプリコーション>と感染経路別予防策
		5. 診療に伴う看護技術	A. 呼吸、循環、体温調整	呼吸・循環・体温調整のアセスメント
		6. 看護の役割と機能	A. 看護の場に応じた活動	在宅における看護活動
	在宅看護論 ／地域・在宅看護論	1. 地域・在宅看護の対象	A. 在宅療養者の特徴と健康課題	高齢の在宅療養者
		2. 地域・在宅看護における基盤となる概念	A. 在宅療養者を取り巻く環境の理解と健康課題	在宅療養者を取り巻く地域の特徴と健康課題
				暮らしの場で看護する基本姿勢
			B. 在宅療養者の権利の保障	個人情報の保護と管理
				サービス提供者の権利の保護
		5. 療養の場に応じた地域・在宅看護	A. 病期に応じた在宅療養者への看護	慢性期にある在宅療養者と家族の看護
		6. 症状・疾患・治療に応じた地域・在宅看護	A. 主な症状に応じた在宅看護	呼吸困難感
			C. 主な治療等に応じた在宅看護	感染予防対策

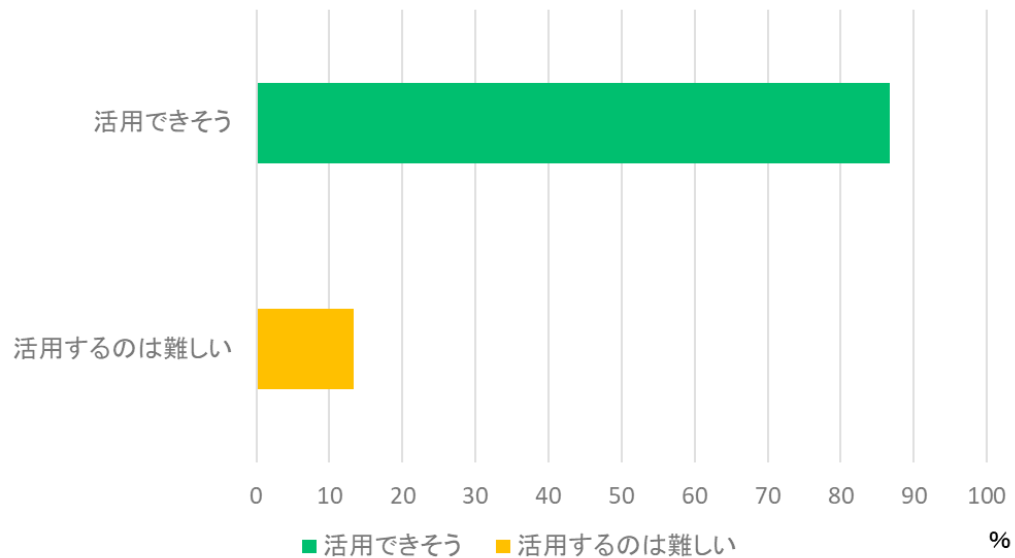
	領域	大項目	中項目	小項目
感染症 単元 5 項目 3	在宅看護論／ 地域・在宅看護論	1. 地域・在宅看護の対象	A. 在宅療養者の特徴と健康課題	高齢の在宅療養者
			B. 在宅療養者のいる家族の理解と健康課題	キーパーソン 生活様式
		2. 地域・在宅看護における基盤となる概念	A. 在宅療養者を取り巻く環境の理解と健康課題	暮らしの場で看護する基本姿勢
		5. 療養の場に応じた地域・在宅看護	A. 病期に応じた在宅療養者への看護	慢性期にある在宅療養者と家族の看護
	看護の 統合と実践	4. 臨床実践場面における統合的な判断や対応	A. 対象や家族に切れ目のない支援を提供するための継続した看護	

資料5 本教材を試聴した現場看護職の意見

問1 あなたの現在の職種を選択してください。



問2 この教材はあなたの職場で活用できる可能性はありますか



問3 この教材の改善点、活用可能場面、良い点を教えてください（自由記述）

表 現場の看護職の自由記述のまとめ

記述内容	件数
本教材の強み	
現場対応が忠実に反映されている	3
随所に問題があって理解しやすい	3
事例があって理解しやすい	3
スライドの要点がまとまっていてわかりやすい	2
e-learning形式なので現場は活用しやすい	1
イラストがあってわかりやすい	1
テストと解説があるので理解しやすい	1
教材内に動画があって理解しやすい	1
具体的な活用場面	
平時の訓練用の教材として使用できる	7
はじめて業務に関わる職員の教育に使用できる	5
新人研修に使用できる	4
職員の災害対応訓練などで使用できる	3
他職種に保健師の業務を伝えるのに活用できる	1
応援派遣者の事前学習に使用できる	1
施設等の感染予防対策の教育用として活用できる	1
管内保健師連絡会などで使用できる	1
改善へのアドバイス/	
本施設の職員が理解できるかやや不安	2
現場でも使えるように広報してほしい	2
教材の利用の仕方の説明が必要	1
集合研修で使用するためのファシリテーターのマニュアルがあると良い	1